

創刊号となる「ZAIDAN Report」第1号では、「子どものための音楽療法サークル『音の輪』」様の活動をご紹介します。

当財団の2024年度事業助成により、2024年10月5日(土)に障がい児・者やそのご家族が気兼ねなくプロの演奏を楽しめるバリアフリーコンサート「第38回音の輪ポピュラーコンサート」を開催され、大盛況となりました。

「音の輪」様についてご紹介

- 「音の輪」は、2007年に、東京都練馬区石神井地域の発達障がい児の親と音楽療法士で立ち上げた自主サークルです。
- 当時、障がい児の余暇活動が殆どなく、障がいの状況に関わらず誰もが楽しめること、更には療育的な役割も果たすことから、「音楽療法」を主軸に活動しています。
- 「障がいの有無に関わらず、フラットな関係で共に楽しめる場作り」を目指しており、一般の方も対象とした「ドラムサークル」も定期的を開催し、小さなお子様から年配の方まで気軽に参加いただいています。



バリアフリーコンサート「音の輪コンサート」について

- 活動が続けるうちに「会員以外の障がい児・者やそのご家族にも、ホールで気兼ねなくプロの演奏を楽しんで欲しい」という思いから、このバリアフリーコンサート「音の輪コンサート」を始めました。
- このコンサートは、様々な方々の支援を受けて非営利で運営しており、今回で38回目を迎える事ができました。



今回の助成応募の背景

- 「音の輪コンサート」は、障がいのある方など一人での来場が難しい方も多く来られるので、入場料をかなり安目に設定していることから、助成等のサポートが不可欠となります。

※現在は1000円（コロナ前は500円）

- 今回のコンサート開催にあたり、「ねりま地域活動ニュース」の紙面で太陽生命厚生財団の助成を知り、申し込みをしました。



第38回「音の輪ポピュラーコンサート」開催！



【当日のステージの全景】

- 今回は秋らしく「シャンソン」を中心に、これまでとは違い大人のムードな曲も多く、初めてアコーディオン奏者もお願いしました。
- 普段は耳にしないジャンルの音楽が中心でしたが、みなさんが飽きる事なく、静かな曲は静かに味わい、元気な曲ではリズムをとるなど、それぞれ楽しんでいる姿が印象的でした。
- リピーターも多く、障がいのある方たちも回を重ねる毎に、ホールでの音楽の楽しみ方をご自分で身に付けているように感じます。中には楽しくて思わず大声を出してしまう方もいますが、それをご覧になる一般の入場者のまなざしにも温かいものが感じられます。これも、回を重ねてきた成果だと感じています。



Let's Sing 🎵

ヴォーカルの方が、客席に降りて
観客と一体となって盛り上がりました



Come On Baby 🎵

ベビーカーで来ている
お子さんにも歌いかけます



今後の抱負など・・・

- これまで16年間継続して開催している「音の輪コンサート」を今後も定期的に続けて行きたいと共に、コンサート以外の音楽活動の場も作って拡げて行きたいと考えています。
- 現在は、ドラムサークルという、参加者が車座になって太鼓をたたいて行なう即興的な音楽活動を月に1回定期的で開催しており、この活動は障がいの有無や年齢に関係なくフラットな関係で参加できるので、地域における新たな交流の場になる事を目指しています。
- 音楽は言葉を介さずに心身に働きかける力があるので、その特長を利用しながら、社会にも貢献できるような活動を行なっていきたいと考えています。